

公立高等学校配置計画案

(平成30年度～32年度)

平成 2 9 年 6 月

北海道教育委員会

目 次

I 公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）策定の考え方

1 趣旨	1
2 中卒者数の見込み	1
3 基本的考え方	1
4 配置計画案（平成30年度～32年度）の概要	2
5 地域キャンパス校の再編整備	3
6 配置計画の変更	3

II 公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）の内容

1 中学校卒業生数	4
2 欠員の状況	4
3 定員及び中学校卒業生数に対する割合	4
4 配置計画案（平成30年度～32年度）の学校別内訳	5
5 中学校卒業生数の推計及び推移	9

III 公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）学区別個表

空知南学区	11
空知北学区	12
石狩学区	13
後志学区	15
胆振西学区	16
胆振東学区	17
日高学区	18
渡島学区	19
檜山学区	20
上川南学区	21
上川北学区	22
留萌学区	23
宗谷学区	24
オホーツク中学区	25
オホーツク東学区	26
オホーツク西学区	27
十勝学区	28
釧路学区	29
根室学区	30

I 公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）策定の考え方

1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、平成30年度から平成32年度までの高校配置の計画を策定するとともに、平成33年度から平成36年度までの見通しを示したものである。

2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、平成30年に4万4,975人、平成31年に4万4,227人、平成32年に4万2,517人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、「新たな高校教育に関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、次のとおり新しい高校づくり等を推進する。

(1) 地域キャンパス校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域キャンパス校とし、センター校からの出張授業や通信機器を活用した教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

(2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を再編にあわせて進める。

(3) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(4) フィールド制の導入

普通科の特色づくりとして、まとまりのある分野の科目群をフィールドとして設定し、興味・関心や進路希望等に応じて自分でフィールドを選択して学習することが可能となるフィールド制の導入を進める。

(5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

(6) 産業キャンパスの活用

職業学科を含めた再編にあわせ、産業教育施設や実習地などを有効に活用するため、産業キャンパス化について検討する。

4 配置計画案（平成30年度～32年度）の概要

昨年決定した平成30年度及び平成31年度の計画を一部変更するとともに、新たに平成32年度の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

(2) 平成30年度～31年度(平成28年度決定)高校配置計画の変更

全日制課程

ア 学級増

幕別高校については、幕別町所在の私立江陵高校が募集停止となること等を考慮し、平成31年度に2学級の増を行うこととし、平成31年度入学者から、私立江陵高校の校舎を使用する。

イ 学級減

室蘭工業高校については、平成31年度に1学級減とする小学科を情報技術科とし、北見商業高校については、平成31年度に1学級減とする小学科を商業科とする。

ウ 単位制の導入

平成31年度に、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、函館西高校及び函館稜北高校の再編により設置する新設校に普通科単位制を、稚内高校に普通科単位制及び専門学科単位制(商業)を導入する。

エ 地域キャンパス校の導入

教育環境の維持向上を図るため、平成30年度から新たに上ノ国高校及び雄武高校を地域キャンパス校とする。

オ その他

平成29年度の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った、美唄尚栄高校ほか11校の平成30年度の募集学級数については、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。

(3) 平成32年度高校配置計画

全日制課程

ア 学級減

各学区ごとに、中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを総合的に勘案し、岩見沢農業高校ほか23校で25学級の減を行う。

なお、職業学科設置校の学級減後の学科構成については、産業技術の進展や地域産業の特性等を踏まえたものとなるよう検討する。

イ 単位制の導入

札幌市において、札幌清田高校(市立)に普通科単位制を導入する。

5 地域キャンパス校の再編整備

地域キャンパス校の再編基準の緩和に向けた新たな人数要件を検討していることから、この検討期間中における地域キャンパス校の新たな再編整備については行わない。

6 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(3)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合
- (3) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

II 公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）の内容

1 中学校卒業生数

平成29年（実績）	45,689人	（対前年比 231人増加）
平成30年（推計）	44,975人	（対前年比 714人減少）
平成31年（推計）	44,227人	（対前年比 748人減少）
平成32年（推計）	42,517人	（対前年比 1,710人減少）

2 欠員の状況 （平成29年5月1日現在）

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合計
2,814人（88人）	1,234人（-33人）	1,424人（-345人）	5,472人（-290人）

※（ ）は対前年増減

3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区分	公立			高等専門学校	私立	計		
	全日制	定時制	中等教育学校					
平成29年度	定員（人）	34,180	2,320	240	720	11,660	49,120	
	割合（％）	74.8	5.1	0.5	1.6	25.5	107.5	
公立高等学校配置計画案	平成30年度	学級増（人）	0	0	0	0	0	0
		学級減（人）	-400	0	0	0	0	-400
		新設（人）	400	0	0	0	0	400
		募集停止（人）	-440	0	0	0	0	-440
		差引増減（人）	-440	0	0	0	0	-440
		定員（人）	33,740	2,320	240	720	11,660	48,680
		割合（％）	75.0	5.2	0.5	1.6	25.9	108.2
平成31年度	学級増（人）	80	0	0	0	0	80	
	学級減（人）	-240	0	0	0	0	-240	
	新設（人）	240	0	0	0	0	240	
	募集停止（人）	-240	0	0	0	0	-240	
	差引増減（人）	-160	0	0	0	0	-160	
	定員（人）	33,580	2,320	240	720	11,660	48,520	
	割合（％）	75.9	5.2	0.5	1.6	26.4	109.7	
平成32年度	学級増（人）	0	0	0	0	0	0	
	学級減（人）	-1,000	0	0	0	0	-1,000	
	新設（人）	0	0	0	0	0	0	
	募集停止（人）	0	0	0	0	0	0	
	差引増減（人）	-1,000	0	0	0	0	-1,000	
	定員（人）	32,580	2,320	240	720	11,660	47,520	
	割合（％）	76.6	5.5	0.6	1.7	27.4	111.8	

* 1 高等専門学校及び私立の定員については、平成30年度以降は見込みを記載。

* 2 霧多布高校（浜中町立）は、1学級の定員を30人としている。

4 配置計画案（平成30年度～32年度）の学校別内訳

◎ 平成29年度入学者選抜における第2次募集後の学級減／全日課程

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H29	空 知 南	道	美 唄 尚 栄	全	総 合	3	2	-1	3学級→2学級
		道	月 形	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	石 狩	道	野 幌	全	普 通	7	6	-1	7学級→6学級
		道	当 別	全	普 通	3	2	-1	5学級→4学級
	後 志	道	余 市 紅 志	全	総 合	2	1	-1	2学級→1学級
	渡 島	道	森	全	総 合	3	2	-1	3学級→2学級
	上 川 北	道	名 寄	全	普 通	4	3	-1	4学級→3学級
	オホーツク東	道	清 里	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	十 勝	道	本 別	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	釧 路	道	白 糠	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
道		標 茶	全	総 合	3	2	-1	3学級→2学級	
根 室	道	羅 臼	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級	
計			12校					-12 (-480)	

◎ 平成30～32年度高校配置計画／全日課程

(1) 学級増減

① 学級増(学校名の前の※印は、平成28年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H30	-								
H31	十 勝	道	※幕 別	全	(検討中)	(検討中)		+2	1学級→3学級
H32	-								
計			1校					+2 (+80)	

② 学級減(学科名の前の※印は、平成28年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H30	空 知 北	市	滝 川 西	全	商業(大学科)	4	3	-1	7学級→6学級
		道	札 幌 南 陵	全	普 通	6	5	-1	6学級→5学級
	石 狩	道	札 幌 厚 別	全	総 合	8	7	-1	8学級→7学級
		道	石 狩 南	全	普 通	8	7	-1	8学級→7学級
	渡 島	市	市 立 函 館	全	普 通	8	6	-2	8学級→6学級
	上 川 南	道	旭 川 北	全	普 通	7	6	-1	7学級→6学級
		道	旭 川 工 業	全	自 動 車	1	0	-1	7学級→6学級
	十 勝	道	帯 広 三 条	全	普 通	7	6	-1	7学級→6学級
	釧 路	道	釧 路 江 南	全	普 通	6	5	-1	6学級→5学級
(小計)			9校					-10	
H31	空 知 南	道	岩 見 沢 西	全	普 通	4	3	-1	4学級→3学級
	石 狩	道	札 幌 東 豊	全	普 通	8	7	-1	8学級→7学級
	胆 振 西	道	室 蘭 工 業	全	※情報技術	1	0	-1	5学級→4学級
	胆 振 東	道	苫 小 牧 南	全	普 通	5	4	-1	5学級→4学級
	オホーツク中	道	北 見 柏 陽	全	普 通	6	5	-1	6学級→5学級
		道	北 見 商 業	全	※商 業	2	1	-1	4学級→3学級
(小計)			6校					-6	

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H32	空知南	道	岩見沢農業	全	(検討中)	(検討中)		-1	7学級→6学級
	空知北	道	深川東	全	(検討中)	(検討中)		-1	3学級→2学級
	石 狩	道	札幌月寒	全	普通	8	7	-1	8学級→7学級
			札幌北陵	全	普通	8	7	-1	8学級→7学級
			札幌手稲	全	普通	8	7	-1	8学級→7学級
			札幌丘珠	全	普通	8	7	-1	8学級→7学級
			札幌西陵	全	普通	8	7	-1	8学級→7学級
			札幌白石	全	普通	8	7	-1	8学級→7学級
			札幌あすかぜ	全	普通	8	7	-1	8学級→7学級
			千歳	全	普通	6	5	-1	9学級→8学級
			北広島西	全	普通	8	7	-1	8学級→7学級
			恵庭南	全	普通	6	5	-1	8学級→7学級
	市	札幌清田	全	普通	8	6	-2	8学級→6学級	
	後志	道	小樽桜陽	全	普通	6	5	-1	6学級→5学級
	胆振西	道	室蘭東翔	全	総合	5	4	-1	5学級→4学級
	渡 島	道	函館工業	全	(検討中)	(検討中)		-1	6学級→5学級
			大野農業	全	(検討中)	(検討中)		-1	4学級→3学級
	上川南	道	旭川東	全	普通	7	6	-1	7学級→6学級
			旭川永嶺	全	普通	7	6	-1	7学級→6学級
			富良野緑峰	全	(検討中)	(検討中)		-1	4学級→3学級
上川北	道	名寄産業	全	(検討中)	(検討中)		-1	4学級→3学級	
オホーツク東	道	網走南ヶ丘	全	普通	5	4	-1	5学級→4学級	
釧 路	道	釧路工業	全	(検討中)	(検討中)		-1	6学級→5学級	
		市	釧路北陽	全	普通	6	5	-1	6学級→5学級
	(小計)		24校				-25		
	計		39校				-41 (-1,640)		

(2) 再編整備(学科名の前の※印は、平成28年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
H30	後 志	道	小樽商業	全	商業	1	0	-1	2学級→0学級
					情報処理	1	0	-1	
		道	小樽工業	全	電子機械	1	0	-1	3学級→0学級
					電気	1	0	-1	
					建設	1	0	-1	
					流通マネジメント	0	1	+1	
	道	新設校	全	情報システム	0	1	+1	4学級 小樽工業校舎を使用	
				機械電気システム	0	1	+1		
				建設システム	0	1	+1		
				流通マネジメント	0	1	+1		
	留 萌	道	留萌	全	普通	4	0	-4	4学級→0学級
					電気・建築	1	0	-1	2学級→0学級
		道	留萌千望	全	情報ビジネス	1	0	-1	
					普通	0	4	+4	6学級 留萌千望校舎を使用
電気・建築					0	1	+1		
道	新設校	全	情報ビジネス	0	1	+1			
			情報ビジネス	0	1	+1			
	(小計)		再編等に伴う募集停止4校、新設2校				-1 (11学級の減、新設校で10学級の増)		

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
H 3 1	渡 島	道	函 館 西	全	普 通	3	0	- 3	3 学級→0 学級
		道	函 館 稜 北	全	普 通	3	0	- 3	3 学級→0 学級
		道	新 設 校	全	※普 通	0	6	+ 6	6 学級 函館西校舎を使用
	(小計)		再編等に伴う募集停止 2 校、新設 1 校						± 0 (6 学級の減、新設校で 6 学級の増)
H 3 2	-								
計		再編等に伴う募集停止 6 校、新設 3 校						- 1 (- 4 0)	

(3) 地域キャンパス校の導入(学校名の前の※印は、平成28年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数	センター校	摘 要	
H 3 0	檜 山	道	※上ノ国	全	普 通	1	江 差		
	オホーツク西	道	※雄 武	全	普 通	1	紋 別		
	(小計)		2 校					2 校	
H 3 1	-								
H 3 2	-								
計		2 校					2 校		

(4) 単位制の導入(学校名の前の※印は、平成28年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数	摘 要
H 3 0	後 志	道	新 設 校	全	流通マネジメント	1	小樽商業・小樽工業の再編
					簿記マネジメント	1	
					機械電気システム	1	
					建設システム	1	
	留 萌	道	新 設 校	全	普 通	4	留萌・留萌千望の再編
(小計)		2 校					
H 3 1	渡 島	道	※新 設 校	全	普 通	6	函館西・函館稜北の再編
	宗 谷	道	※稚 内	全	普 通	3	
					商 業	1	
(小計)		2 校					
H 3 2	石 狩 市		札幌清田	全	普 通	6	
	(小計)		1 校				
計		5 校					

(5) 職業学科の学科転換（再編によるものを除く）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	適 要
						実施前	実施後		
H30	空 知 北 市		滝 川 西	全	会計ビジネス	2	0	-2	(再掲) 1学年総学級数 7学級→6学級
					情報ビジネス	2	0	-2	
					情報マネジメント	0	3	+3	
	(小計)		1校					-1	
H31	-								
H32	-								
計			1校					-1 (-40)	

5 中学校卒業生数の推計及び推移

中学校卒業生数推計表（29年推計）

	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年
空知南	1,272	1,278 +6 ▲ 93	1,185 ▲ 93	1,129 ▲ 56	1,120 ▲ 9	1,097 ▲ 23	1,117 +20	1,006 ▲ 111
空知北	1,125	1,030 ▲ 95	995 ▲ 35	929 ▲ 66	855 ▲ 74	905 +50	855 ▲ 50	824 ▲ 31
石狩	20,142	19,997 ▲ 145	19,864 ▲ 133	19,108 ▲ 756	18,731 ▲ 377	19,203 +472	19,215 +12	19,317 +102
後志	1,732	1,682 ▲ 50	1,608 ▲ 74	1,456 ▲ 152	1,425 ▲ 31	1,466 +41	1,408 ▲ 58	1,402 ▲ 6
胆振西	1,596	1,574 ▲ 22	1,530 ▲ 44	1,479 ▲ 51	1,359 ▲ 120	1,379 +20	1,343 ▲ 36	1,331 ▲ 12
胆振東	1,845	1,910 +65	1,749 ▲ 161	1,810 +61	1,708 ▲ 102	1,759 +51	1,662 ▲ 97	1,694 +32
日高	604	584 ▲ 20	548 ▲ 36	522 ▲ 26	506 ▲ 16	558 +52	513 ▲ 45	496 ▲ 17
渡島	3,302	3,277 ▲ 25	3,241 ▲ 36	3,133 ▲ 108	2,929 ▲ 204	2,939 +10	2,780 ▲ 159	2,894 +114
檜山	313	295 ▲ 18	293 ▲ 2	246 ▲ 47	240 ▲ 6	226 ▲ 14	226 ±0	190 ▲ 36
上川南	3,901	3,660 ▲ 241	3,760 +100	3,583 ▲ 177	3,432 ▲ 151	3,495 +63	3,358 ▲ 137	3,294 ▲ 64
上川北	551	547 ▲ 4	486 ▲ 61	475 ▲ 11	458 ▲ 17	461 +3	454 ▲ 7	436 ▲ 18
留萌	346	340 ▲ 6	362 +22	342 ▲ 20	300 ▲ 42	291 ▲ 9	307 +16	276 ▲ 31
宗谷	564	597 +33	511 ▲ 86	516 +5	501 ▲ 15	512 +11	465 ▲ 47	454 ▲ 11
オホーツク中	1,334	1,386 +52	1,252 ▲ 134	1,239 ▲ 13	1,151 ▲ 88	1,181 +30	1,139 ▲ 42	1,175 +36
オホーツク東	557	538 ▲ 19	533 ▲ 5	501 ▲ 32	494 ▲ 7	483 ▲ 11	440 ▲ 43	494 +54
オホーツク西	533	486 ▲ 47	529 +43	476 ▲ 53	470 ▲ 6	426 ▲ 44	429 +3	411 ▲ 18
十勝	3,107	3,067 ▲ 40	3,054 ▲ 13	2,961 ▲ 93	2,848 ▲ 113	2,852 +4	2,865 +13	2,825 ▲ 40
釧路	2,058	2,009 ▲ 49	1,992 ▲ 17	1,872 ▲ 120	1,805 ▲ 67	1,828 +23	1,796 ▲ 32	1,659 ▲ 137
根室	807	718 ▲ 89	735 +17	740 +5	657 ▲ 83	680 +23	656 ▲ 24	636 ▲ 20
合計	45,689	44,975 ▲ 714	44,227 ▲ 748	42,517 ▲ 1,710	40,989 ▲ 1,528	41,741 +752	41,028 ▲ 713	40,814 ▲ 214

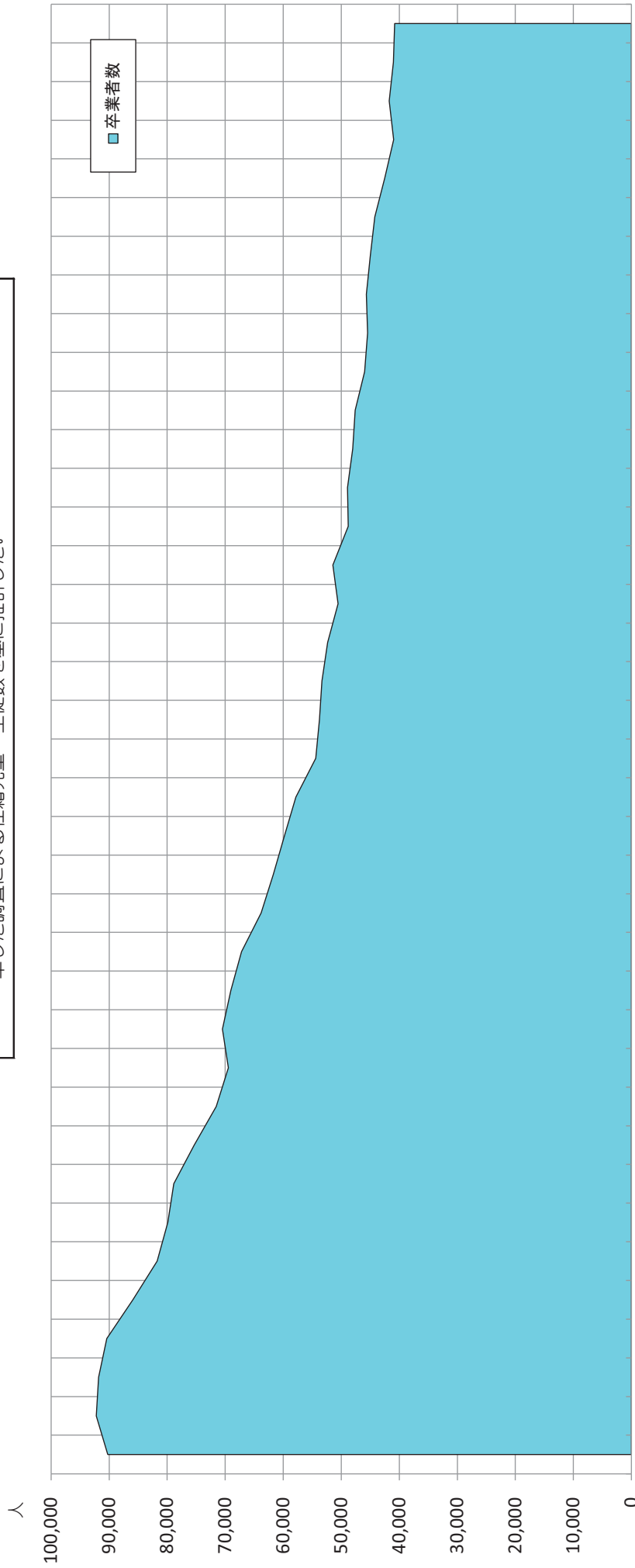
※中学校卒業生数は、平成29年5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※平成29年は実数、平成30年以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移

（昭和62年～平成36年）

(注) 1 昭和62年3月～平成29年3月は実卒業者数である。
 2 平成30年3月～平成36年3月は学校基本調査（平成29年5月1日現在）に
 準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



Ⅲ 公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）学区別個表

空知南学区高校配置計画案										
区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36年までの増減	平成33～36年までの増減
学区内中卒者数	1,272	1,278	1,185	1,129	1,120	1,097	1,117	1,006	▲ 266	▲ 123
対前年増減		+ 6	▲ 93	▲ 56	▲ 9	▲ 23	+ 20	▲ 111		
岩見沢市中卒者数	(698)	(708)	(673)	(639)	(621)	(630)	(631)	(590)	▲ 108	▲ 49
対前年増減		+ 10	▲ 35	▲ 34	▲ 18	+ 9	+ 1	▲ 41		
美幌市中卒者数	(173)	(172)	(159)	(121)	(135)	(127)	(127)	(116)	▲ 57	▲ 5
対前年増減		▲ 1	▲ 13	▲ 38	+ 14	▲ 8	± 0	▲ 11		
三笠市中卒者数	(57)	(46)	(54)	(49)	(59)	(55)	(42)	(45)	▲ 12	▲ 4
対前年増減		▲ 11	+ 8	▲ 5	+ 10	▲ 4	▲ 13	+ 3		
夕張市中卒者数	(37)	(40)	(29)	(36)	(30)	(33)	(34)	(30)	▲ 7	▲ 6
対前年増減		+ 3	▲ 11	+ 7	▲ 6	+ 3	+ 1	▲ 4		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
岩見沢東	5		5	-1				○4年間で3～4学級相当の調整が必要		
単 岩見沢西	4		4	17	普▲1			○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、岩見沢市内及び岩見沢市周辺市町において、再編整備を含めた公立高校全体の定員調整の検討が必要		
岩見沢農業		農 7	7	3		農▲1		○小規模校について、中卒者数や地元からの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
*岩見沢緑陵	4	商 2	6	21				○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要		H29二次募集後学級減
総 美幌尚栄	3→2		2	18	[計画決定時に公表]			○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		
美幌聖華		看 2	2	0						
*三 笠		家 1	1	0						
月 形	2→1		1	6	[計画決定時に公表]					H29二次募集後学級減
夕 張	1		1	20						
長 沼	2		2	24						
栗 山	2		2	22						
南 幌	1		1	28						
12校	24 →22	12	34	158		普▲1	農▲1			

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は全日制普通科単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域キャンパス校、「産」は産業キャンパス。(以下同)

注3 学校名の*は市町村立学校。(以下同)

注4 平成29年度募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

なお、平成30年度の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。(以下同)

注5 「平成33～36年度までの見通し」欄の学級数の調整については平成36年と平成32年の中卒者数の比較により算出。(以下同)

空知北学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減
学区内中卒者数	1,125	1,030	995	929	855	905	855	824	▲ 301	▲ 105
対前年増減		▲ 95	▲ 35	▲ 66	▲ 74	+ 50	▲ 50	▲ 31		
滝川市中卒者数	(351)	(315)	(323)	(309)	(280)	(325)	(302)	(277)	▲ 74	▲ 32
対前年増減		▲ 36	+ 8	▲ 14	▲ 29	+ 45	▲ 23	▲ 25		
砂川市中卒者数	(158)	(151)	(141)	(133)	(128)	(119)	(115)	(121)	▲ 37	▲ 12
対前年増減		▲ 7	▲ 10	▲ 8	▲ 5	▲ 9	▲ 4	+ 6		
歌志内市中卒者数	(30)	(20)	(15)	(19)	(14)	(15)	(13)	(11)	▲ 19	▲ 8
対前年増減		▲ 10	▲ 5	+ 4	▲ 5	+ 1	▲ 2	▲ 2		
芦別市中卒者数	(102)	(93)	(78)	(75)	(77)	(81)	(54)	(65)	▲ 37	▲ 10
対前年増減		▲ 9	▲ 15	▲ 3	+ 2	+ 4	▲ 27	+ 11		
赤平市中卒者数	(75)	(74)	(60)	(49)	(40)	(51)	(60)	(44)	▲ 31	▲ 5
対前年増減		▲ 1	▲ 14	▲ 11	▲ 9	+ 11	+ 9	▲ 16		
深川市中卒者数	(167)	(136)	(161)	(140)	(124)	(127)	(128)	(117)	▲ 50	▲ 23
対前年増減		▲ 31	+ 25	▲ 21	▲ 16	+ 3	+ 1	▲ 11		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
滝 川	6		6	25				○4年間で2～3学級相当の調整が必要		
滝川工業		工 2	2	16				○欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、再編整備や学校・学科の配置の在り方を含めた定員調整の検討が必要		
*滝川西	3	商 4	7	24	商▲1			○滝川市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要		
単 砂 川	3		3	8				○深川市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要		
奈井江商業		商 1	1	6				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
新十津川農業		農 1	1	10						
芦 別	3		3	8						
深川西	4		4	38						
深川東		農 1 商 2	3	58			▲1 (学科検討中)			
9校	19	11	30	193	商▲1		(学科検討中)▲1			

石狩学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減
学区内中卒者数	20,142	19,997	19,864	19,108	18,731	19,203	19,215	19,317	▲ 825	+ 209
対前年増減		▲ 145	▲ 133	▲ 756	▲ 377	+ 472	+ 12	+ 102		
札幌市中卒者数	(15,842)	(15,780)	(15,568)	(15,040)	(14,858)	(15,153)	(15,288)	(15,313)	▲ 529	+ 273
対前年増減		▲ 62	▲ 212	▲ 528	▲ 182	+ 295	+ 135	+ 25		
江別市中卒者数	(1,257)	(1,253)	(1,253)	(1,186)	(1,134)	(1,250)	(1,166)	(1,215)	▲ 42	+ 29
対前年増減		▲ 4	± 0	▲ 67	▲ 52	+ 116	▲ 84	+ 49		
千歳市中卒者数	(908)	(959)	(901)	(850)	(880)	(882)	(858)	(915)	+ 7	+ 65
対前年増減		+ 51	▲ 58	▲ 51	+ 30	+ 2	▲ 24	+ 57		
恵庭市中卒者数	(680)	(669)	(705)	(645)	(625)	(677)	(707)	(680)	± 0	+ 35
対前年増減		▲ 11	+ 36	▲ 60	▲ 20	+ 52	+ 30	▲ 27		
北広島市中卒者数	(703)	(641)	(702)	(636)	(570)	(573)	(576)	(534)	▲ 169	▲ 102
対前年増減		▲ 62	+ 61	▲ 66	▲ 66	+ 3	+ 3	▲ 42		
石狩市中卒者数	(558)	(530)	(578)	(607)	(537)	(526)	(510)	(537)	▲ 21	▲ 70
対前年増減		▲ 28	+ 48	+ 29	▲ 70	▲ 11	▲ 16	+ 27		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	-1				○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○各区、市町村ごとの中卒者数の状況、欠員の状況やこれまでの調整などを考慮した定員調整の検討が必要 ○札幌市内については、中卒者数の減にあわせて、生徒急増期に新設した高校を中心とした再編を含め、公立高校全体での定員調整の検討が必要 ○複数の学科を設置している職業高校の定時制課程について、いずれかの学科で5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、学科の見直しを含めた再編整備の検討が必要		
札幌西	8		8	-1						
札幌南	8		8	0						
札幌北	8		8	0						
札幌月寒	8		8	-1			普▲1			
札幌啓成	8		8	-2						
札幌北陵	8		8	-1			普▲1			
単 札幌手稲	8		8	-1			普▲1			
フ 札幌丘珠	8		8	0			普▲1			
札幌西陵	8		8	20			普▲1			
単 札幌白石	8		8	-1			普▲1			
単 札幌東陵	8		8	4						
札幌南陵	6		6	0	普▲1					
札幌東豊	8		8	13		普▲1				
総 札幌厚別	8		8	-1	総▲1					
札幌真栄	4		4	1						
フ 札幌あすかぜ	8		8	0			普▲1			
札幌稲雲	7		7	-1						
フ 札幌平岡	6		6	-1						
単 札幌英藍	8		8	0						

学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単 札幌白陵	4		4	2					
札幌国際情報	4	工 商	1 3	8	-2				
江 別	5	商 家	2 1	8	5				
フ 野 幌	7→6		6	14	(計画決定時 に公表)				H29二次募集後学級減
単 大 麻	7		7	-2					
千 歳	7	商	2	9	26		普▲1		
フ 千歳北陽	6		6	8					
単 北 広 島	8		8	1					
北広島西	8		8	7			普▲1		
石 狩 南	8		8	0	普▲1				
当 別	3→2	農 家	1 1	4	33	(計画決定時 に公表)			H29二次募集後学級減
恵 庭 南	8		8	0			普▲1		
恵 庭 北	7		7	0					
札幌工業		工	8	8	-2				
札幌琴似工業		工	8	8	22				
札幌東商業		商	8	8	0				
総 石狩翔陽	8		8	0					
単 *札幌旭丘	8		8	-1					
*札幌藻岩	8		8	-2					
*札幌平岸	8		8	-1					
*札幌清田	8		8	0			普▲2 単位制導入		
中 等 *市立札幌開成	4		4	0					コスモサイエンス科単位制
*札幌新川	8		8	-1					
*札幌啓北商業		商	6	6	0				
44校	285→ 283	41	324	134	普▲2 総▲1	普▲1	普▲1 2		

後志学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36年までの増減	平成33～36年までの増減	
学区内中卒者数	1,732	1,682	1,608	1,456	1,425	1,466	1,408	1,402	▲ 330	▲ 54	
対前年増減		▲ 50	▲ 74	▲ 152	▲ 31	+ 41	▲ 58	▲ 6			
小樽市中卒者数	(938)	(927)	(872)	(768)	(790)	(793)	(740)	(748)	▲ 190	▲ 20	
対前年増減		▲ 11	▲ 55	▲ 104	+ 22	+ 3	▲ 53	+ 8			
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
小樽潮陵	6		6	0				○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内及び小樽市周辺町において、定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要			
単 小樽桜陽	6		6	29			普▲1				
小樽商業		商 2	2	0	商▲2						
小樽工業		工 3	3	0	工▲3						
新設校					商+2、工+2 商業及び工業に 単位制導入						小樽工業校舎を使用
小樽水産		水 4	4	0							
総 余市紅志	2→1		1	1	(計画決定時 に 公表)						H29二次募集後学級減
単 岩 内	3	商 1	4	46							寿都のセンター校 普通科単位制
地 寿 都	1		1	13							
単 倶 知 安	4		4	2							蘭越のセンター校
地 蘭 越	1		1	27							
倶知安農業		農 1	1	6							
11校	23 →22	11	33	124	商▲2、工▲3 商+2、工+2		普▲1				

胆振西学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減
学区内中卒者数	1,596	1,574	1,530	1,479	1,359	1,379	1,343	1,331	▲ 265	▲ 148
対前年増減		▲ 22	▲ 44	▲ 51	▲ 120	+ 20	▲ 36	▲ 12		
室蘭市中卒者数	(727)	(703)	(673)	(627)	(597)	(541)	(546)	(557)	▲ 170	▲ 70
対前年増減		▲ 24	▲ 30	▲ 46	▲ 30	▲ 56	+ 5	+ 11		
登別市中卒者数	(472)	(432)	(493)	(422)	(387)	(429)	(411)	(394)	▲ 78	▲ 28
対前年増減		▲ 40	+ 61	▲ 71	▲ 35	+ 42	▲ 18	▲ 17		
伊達市中卒者数	(280)	(295)	(273)	(311)	(274)	(283)	(280)	(286)	+ 6	▲ 25
対前年増減		+ 15	▲ 22	+ 38	▲ 37	+ 9	▲ 3	+ 6		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
室 蘭 栄	6		6	12				○4年間で2～3学級相当の調整が必要 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、室蘭市内や登別市内において定員調整の検討が必要 ○伊達市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、再編を含めた早急な定員調整の検討が必要		
単 室蘭清水丘	4		4	4						
総 室蘭東翔	5		5	1			総▲1			
室蘭工業		工 5	5	23		工▲1				
登別青嶺	4		4	-1						
中 登別明白	2		2	5						
伊 達	3		3	7					虻田のセンター校	
伊達緑丘	4		4	29						
地 虻 田		商 1	1	21						
*壮 警		農 1	1	13						
10校	28	7	35	114		工▲1	総▲1			

胆振東学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減
学区内中卒者数	1,845	1,910	1,749	1,810	1,708	1,759	1,662	1,694	▲ 151	▲ 116
対前年増減		+ 65	▲ 161	+ 61	▲ 102	+ 51	▲ 97	+ 32		
苫小牧市中卒者数	(1,573)	(1,620)	(1,482)	(1,553)	(1,457)	(1,506)	(1,456)	(1,487)	▲ 86	▲ 66
対前年増減		+ 47	▲ 138	+ 71	▲ 96	+ 49	▲ 50	+ 31		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
苫小牧東	6		6	1				○4年間で2～3学級相当の調整が必要		厚真のセンター校
苫小牧西	4		4	0				○これまでの調整や学校・学科の配置状況を考慮し、苫小牧市内及び苫小牧市周辺町において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要		穂別のセンター校
単 苫小牧南	5		5	0		普▲1		○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
苫小牧工業		工 6	6	0				○複数の学科を設置している職業高校の定時制課程について、いずれかの学科で5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、学科の見直しを含めた再編整備の検討が必要		
苫小牧総合経済		商 4	4	0						
白 老 東	2		2	0						
地 厚 真	1		1	0						
地 穂 別	1		1	23						
追 分	1		1	0						
中高 鶴 川	2		2	30						
10校	22	10	32	54		普▲1				

日高学区高校配置計画案

区分	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	平成30~36年までの増減	平成33~36年までの増減
学区内中卒者数	604	584	548	522	506	558	513	496	▲ 108	▲ 26
対前年増減		▲ 20	▲ 36	▲ 26	▲ 16	+ 52	▲ 45	▲ 17		
浦河町中卒者数	(103)	(119)	(101)	(104)	(94)	(88)	(92)	(94)	▲ 9	▲ 10
対前年増減		+ 16	▲ 18	+ 3	▲ 10	▲ 6	+ 4	+ 2		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33~36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 静 内	5		5	6				<ul style="list-style-type: none"> ○4年間で0~1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や地元からの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要 	平取のセンター校	
静内農業		農 2	2	30						
富 川	1		1	6						
地 平 取	1		1	21						
総 浦 河	4		4	31						
中高 *えりも	2		2	49						
6校	13	2	15	143						

渡島学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36年までの増減	平成33～36年までの増減	
学区内中卒者数	3,302	3,277	3,241	3,133	2,929	2,939	2,780	2,894	▲ 408	▲ 239	
対前年増減		▲ 25	▲ 36	▲ 108	▲ 204	+ 10	▲ 159	+ 114			
函館市中卒者数	(2,117)	(2,050)	(2,068)	(1,971)	(1,833)	(1,883)	(1,775)	(1,852)	▲ 265	▲ 119	
対前年増減		▲ 67	+ 18	▲ 97	▲ 138	+ 50	▲ 108	+ 77			
北斗市中卒者数	(460)	(496)	(475)	(447)	(426)	(445)	(423)	(452)	▲ 8	+ 5	
対前年増減		+ 36	▲ 21	▲ 28	▲ 21	+ 19	▲ 22	+ 29			
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
函館中部	6		6	0				○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの調整、学校・学科の配置状況を考慮し、函館市内において、定員調整の検討が必要 ○中卒者数を考慮し、学校・学科の配置の在り方も含め、北斗市内において、再編の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要		南茅部のセンター校	
函館西	3		3	-1	普▲3						
函館稜北	3		3	0	普▲3						
新設校					普+6 単位制導入 (計画変更)						函館西校舎を使用
単 *市立函館	8		8	0	普▲2						
函館水産		水 4	4	30							
函館商業		商 4	4	0							福島商業のセンター校
函館工業		工 6	6	1			工▲1				
地 南 茅 部	1		1	27							
上 磯	1		1	4							
七 飯	3		3	0							
大野農業		農 4	4	68			農▲1				
松 前	1		1	10							
*知内	2		2	26							
地 福島商業		商 1	1	17							
八 雲	3	商 1	4	70							長万部のセンター校
総 森	3→2		2	13	(計画決定時に公表)						H29二次募集後学級減
地 長万部	1		1	24							
17校	35 →34	20	54	289	普▲2	普▲6 普+6	工▲1 農▲1				

檜山学区高校配置計画案

檜山学区高校配置計画案												
区 分		H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減	
学区内中卒者数		313	295	293	246	240	226	226	190	▲ 123	▲ 56	
対前年増減			▲ 18	▲ 2	▲ 47	▲ 6	▲ 14	± 0	▲ 36			
江差町中卒者数		(69)	(70)	(50)	(54)	(49)	(46)	(56)	(44)	▲ 25	▲ 10	
対前年増減			+ 1	▲ 20	+ 4	▲ 5	▲ 3	+ 10	▲ 12			
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し			摘要	
	普通	職業	計					○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要			上ノ国のセンター校	
単 江 差	3		3	27								
上ノ国	1		1	1	地域キャンパス校化 (計画変更)							
総 檜 山 北	3		3	26								
中高 *奥 尻	1		1	25								
4校	8	0	8	79								

上川南学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減
学区内中卒者数	3,901	3,660	3,760	3,583	3,432	3,495	3,358	3,294	▲ 607	▲ 289
対前年増減		▲ 241	+ 100	▲ 177	▲ 151	+ 63	▲ 137	▲ 64		
旭川市中卒者数	(2,986)	(2,708)	(2,903)	(2,716)	(2,621)	(2,697)	(2,580)	(2,547)	▲ 439	▲ 169
対前年増減		▲ 278	+ 195	▲ 187	▲ 95	+ 76	▲ 117	▲ 33		
富良野市中卒者数	(211)	(229)	(182)	(195)	(168)	(178)	(172)	(169)	▲ 42	▲ 26
対前年増減		+ 18	▲ 47	+ 13	▲ 27	+ 10	▲ 6	▲ 3		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
旭川東	7		7	-1			普▲1	○4年間で5～6学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの調整などを考慮し、旭川市内や旭川市周辺町及び富良野市や富良野市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
旭川西	6		6	0						
単 旭川北	7		7	-1	普▲1					
総 旭川南	6		6	0						
単 旭川永嶺	7		7	-1			普▲1			
旭川商業		商 6	6	0						
旭川工業		工 7	7	0	工▲1					
旭川農業		農 4	4	-3						
鷹 栖	1		1	0						
東 川	2		2	0						
美 瑛	2		2	37						
中高 上 川	2		2	39						
単 富 良 野	4		4	3						
富良野緑峰		農 1 工 1 商 2	4	62			▲1 (学科検討中)			
上富良野	1		1	8						
*南富良野	1		1	20						
16校	46	21	67	163	普▲1 工▲1		普▲2 (学科検討中)▲1			

上川北学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36年までの増減	平成33～36年までの増減
学区内中卒者数	551	547	486	475	458	461	454	436	▲ 115	▲ 39
対前年増減		▲ 4	▲ 61	▲ 11	▲ 17	+ 3	▲ 7	▲ 18		
士別市中卒者数	(175)	(175)	(151)	(144)	(144)	(133)	(147)	(127)	▲ 48	▲ 17
対前年増減		± 0	▲ 24	▲ 7	± 0	▲ 11	+ 14	▲ 20		
名寄市中卒者数	(230)	(247)	(211)	(206)	(181)	(219)	(189)	(196)	▲ 34	▲ 10
対前年増減		+ 17	▲ 36	▲ 5	▲ 25	+ 38	▲ 30	+ 7		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
士別翔雲	3	商 1	4	22				○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、名寄市内で定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		下川商業のセンター校
地 下川商業		商 1	1	-2						
名 寄	4→3		3	13	(計画決定時に公表)					
地 美 深	1		1	12						
産 名寄産業		農 1 工 2 家 1	4	64			▲ 1 (学科検討中)			
総 *剣 淵	1		1	8						
*おといねっぶ 美術工芸	1		1	0						
7校	10→9	6	15	117			(学科検討中)▲ 1			

留萌学区高校配置計画案

留萌学区高校配置計画案																										
区 分	H 2 9			H 3 0			H 3 1			H 3 2			H 3 3			H 3 4			H 3 5			H 3 6			平成30~36 年までの 増減	平成33~36 年までの 増減
学区内中卒者数	346			340			362			342			300			291			307			276			▲ 70	▲ 66
対前年増減				▲ 6			+ 22			▲ 20			▲ 42			▲ 9			+ 16			▲ 31				
留萌市中卒者数	(157)			(133)			(150)			(140)			(153)			(127)			(141)			(121)			▲ 36	▲ 19
対前年増減				▲ 24			+ 17			▲ 10			+ 13			▲ 26			+ 14			▲ 20				
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数				H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33~36年度までの見通し						摘要											
	普通	職業	計																							
単 留 萌	4		4	13	普▲4			○4年間で1~2学級相当の調整が必要						苫前商業のセンター校												
留萌千望		工 商 1 1	2	41	工▲1 商▲1			○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要																		
新設校					普+4、工+1 商+1 普通に単位制導入			○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要						留萌千望校舎を使用												
羽 幌	2		2	27				○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要																		
地 苫前商業		商 1	1	30				○農業に関する学科を置く第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要																		
天 塩	2		2	28																						
遠別農業		農 1	1	22																						
6校	8	4	12	161	普▲4、工▲1 商▲1、普+4 工+1、商+1																					

宗谷学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36年までの増減	平成33～36年までの増減
学区内中卒者数	564	597	511	516	501	512	465	454	▲ 110	▲ 62
対前年増減		+ 33	▲ 86	+ 5	▲ 15	+ 11	▲ 47	▲ 11		
稚内市中卒者数	(294)	(321)	(262)	(277)	(259)	(271)	(240)	(230)	▲ 64	▲ 47
対前年増減		+ 27	▲ 59	+ 15	▲ 18	+ 12	▲ 31	▲ 10		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
稚 内	3	商 1 看 1	5	6		普通及び商業に 単位制導入 (計画変更)			○4年間で1～2学級相当の調整が必要	豊富のセンター校
地 豊 富	1		1	16					○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要	
浜 頓 別	2		2	33					○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要	
枝 幸	2		2	26					○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要	
利 尻	1	商 1	2	57					○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要	
礼 文	1		1	28					○離島にある高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要	
6校	10	3	13	166						

オホーツク中学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36年までの増減	平成33～36年までの増減
学区内中卒者数	1,334	1,386	1,252	1,239	1,151	1,181	1,139	1,175	▲ 159	▲ 64
対前年増減		+ 52	▲ 134	▲ 13	▲ 88	+ 30	▲ 42	+ 36		
北見市中卒者数	(1,026)	(1,058)	(953)	(940)	(879)	(885)	(907)	(914)	▲ 112	▲ 26
対前年増減		+ 32	▲ 105	▲ 13	▲ 61	+ 6	+ 22	+ 7		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数				平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計	H29 欠員						
北見北斗	6		6	-2				○4年間で1～2学級相当の調整が必要		常呂のセンター校
単 北見柏陽	6		6	7		普▲1		○中卒者数や欠員の状況を考慮し、北見市内及び北見市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要		佐呂間のセンター校
フ 北見緑陵	4		4	-1				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
北見工業		工 3	3	10				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
北見商業		商 4	4	-2		商▲1		○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要		
置 戸		福 1	1	25						
総 留 辺 薬	1		1	20						
地 佐 呂 間	1		1	9						
地 常 呂	1		1	36						
訓 子 府	1		1	0						
地 津 別	1		1	8						
美 幌	2	農 2	4	73						津別のセンター校
12校	23	10	33	183		普▲1 商▲1				

オホーツク東学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30~36 年までの 増減	平成33~36 年までの 増減
学区内中卒者数	557	538	533	501	494	483	440	494	▲ 63	▲ 7
対前年増減		▲ 19	▲ 5	▲ 32	▲ 7	▲ 11	▲ 43	+ 54		
網走市中卒者数	(336)	(304)	(301)	(277)	(290)	(258)	(238)	(257)	▲ 79	▲ 20
対前年増減		▲ 32	▲ 3	▲ 24	+ 13	▲ 32	▲ 20	+ 19		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 網走南ヶ丘	5		5	12			普▲1	○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○大空町において、学校・学科の配置の状況などを考慮し、学級減や再編整備も含め、その在り方の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要	清里のセンター校	
網走桂陽	2	商 2	4	5						
女 満 別	1		1	25						
総 斜 里	2		2	38						
地 清 里	2→1		1	1	(計画決定時に公表)					H29二次募集後学級減
5校	12→11	2	13	81			普▲1			

オホーツク西学区高校配置計画案

オホーツク西学区高校配置計画案											
区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減	
学区内中卒者数	533	486	529	476	470	426	429	411	▲ 122	▲ 65	
対前年増減		▲ 47	+ 43	▲ 53	▲ 6	▲ 44	+ 3	▲ 18			
紋別市中卒者数	(184)	(153)	(176)	(141)	(162)	(141)	(136)	(131)	▲ 53	▲ 10	
対前年増減		▲ 31	+ 23	▲ 35	+ 21	▲ 21	▲ 5	▲ 5			
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し			摘要
	普通	職業	計								
単 遠 軽	5		5	20					○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要	興部、雄武のセンター校	
紋 別	3	工 1 商 1	5	39							
地 興 部	1		1	0							
雄 武	1		1	16	地域キャンパス校化 (計画変更)						
中 湧 別	2		2	38							
5校	12	2	14	113							

十勝学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減	
学区内中卒者数	3,107	3,067	3,054	2,961	2,848	2,852	2,865	2,825	▲ 282	▲ 136	
対前年増減		▲ 40	▲ 13	▲ 93	▲ 113	+ 4	+ 13	▲ 40			
帯広市中卒者数	(1,410)	(1,375)	(1,357)	(1,343)	(1,267)	(1,312)	(1,307)	(1,314)	▲ 96	▲ 29	
対前年増減		▲ 35	▲ 18	▲ 14	▲ 76	+ 45	▲ 5	+ 7			
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
帯広柏葉	7		7	1				○4年間で2～3学級相当の調整が必要 ○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、帯広市内において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要			
単 帯広三条	7		7	1	普▲1						
帯広緑陽	4		4	0							
帯広工業		工 4	4	8							
帯広農業		農 5	5	0							
*帯広南商業		商 5	5	0							
単 音 更	4		4	0							
芽 室	4		4	0							
霧 別	1		1	17		+ 2 (学科検討中) (計画変更)					平成31年度入学者から、私立江陵校舎を使用
上 土 幌	2		2	0							
*土 幌		農 2	2	30							
総 清 水	4		4	25							
中高 鹿 追	2		2	17							
更別農業		農 2	2	32							
大 樹	2		2	24							
中高 広 尾	2		2	29							
総 池 田	2		2	4							
本 別	2→1		1	2	(計画決定時に公表)						H29二次募集後学級減
足 寄	2		2	20							
19校	45 →44	18	62	210	普▲1	(学科検討中)+ 2					

釧路学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減
学区内中卒者数	2,058	2,009	1,992	1,872	1,805	1,828	1,796	1,659	▲ 399	▲ 213
対前年増減		▲ 49	▲ 17	▲ 120	▲ 67	+ 23	▲ 32	▲ 137		
釧路市中卒者数	(1,516)	(1,459)	(1,438)	(1,359)	(1,320)	(1,342)	(1,339)	(1,214)	▲ 302	▲ 145
対前年増減		▲ 57	▲ 21	▲ 79	▲ 39	+ 22	▲ 3	▲ 125		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数				平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計	H29 欠員						
釧路湖陵	6		6	1				○4年間で5～6学級相当の調整が必要		阿寒のセンター校
単 釧路江南	6		6	0	普▲1			○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、釧路市内及び釧路市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要		
釧路商業		商 4	4	-1				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
釧路工業		工 6	6	1		工▲1		○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要		
総 釧路明輝	5		5	0						
フ *釧路北陽	6		6	0		普▲1				
釧路東	3		3	-2						
地 阿 寒	1		1	23						
白 糠	2→1		1	11	(計画決定時に公表)					H29二次募集後学級減
総 標 茶	3→2		2	2	(計画決定時に公表)					H29二次募集後学級減
弟子屈	2		2	39						
厚岸翔洋	1	水 1	2	24						
*霧多布	2		2	28						
13校	37 →35	11	46	126	普▲1		工▲1 普▲1			

根室学区高校配置計画案

区 分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	平成30～36 年までの 増減	平成33～36 年までの 増減
学区内中卒者数	807	718	735	740	657	680	656	636	▲ 171	▲ 104
対前年増減		▲ 89	+ 17	+ 5	▲ 83	+ 23	▲ 24	▲ 20		
根室市中卒者数	(252)	(204)	(201)	(209)	(194)	(194)	(190)	(177)	▲ 75	▲ 32
対前年増減		▲ 48	▲ 3	+ 8	▲ 15	± 0	▲ 4	▲ 13		
学校名	平成29年度の状況 学科及び募集学級数			H29 欠員	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33～36年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 根 室	4	商 2	6	24				○4年間で2～3学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、教育環境の維持向上を図るため、地域キャンパス校化の検討が必要		
別 海	3	農 1	4	63						
中 標 津	4	商 2	6	48						
標 津	2		2	18						
*中標津農業		農 2	2	49						
中 高 羅 臼	2→1		1	9	(計画決定時に公表)					
6校	15 →14	7	21	211						

《全学区共通事項》

平成30年度以降の各通学区域における生徒の進路動向を見極めて、毎年度再検討するとともに、新たに計画に反映させるものとする。